



○ 市美

北九州市立美術館です。この美術館との出会いは以前記述しましたので詳細は省略です。思い出のある建物です。このたび「日本近代洋画への道」と題した展覧会が開催されていたので鑑賞に行ってきました。KC校の階段踊り場にもポスターが貼られていましたので教職員および学生たちも目にしていたと思います。高橋由一、黒田清輝、青木繁、藤島武二などの作品が展示されていました。有名な日本の作家たちです。私が鑑賞に訪れたのは学生時代の絵を学びはじめた純粋な気持ちを思い出すことが目的のうちの一つでもありました。江戸から明治、大正と日本の絵描きたちが西洋の技術に驚嘆してがむしゃらに学ぼうという強い意志を感じる内容でした。各作家の、私が期待した代表的な作品はあまりありませんでしたので少しだけ残念な気持ちも残りましたが、パンフレットで観るよりも実物の迫力と繊細さを感じ取ることができたので満足しました。

このたび作品鑑賞をしていて驚いたことがあります。多くの人が写真撮影をしていたことです。一部の作品を除いて撮影可ということでした。以前はあり得ないことでしたのでびっくりしました。想像するに、撮影してインスタグラムなどにあげてもらって観覧者数を増やしたいという理由かなと思いました。ただ疑問点も残りました。せっかく実物が目の前にあるのに撮影することによって満足し、じっくり観ていない人は結構多いのではないかと想像しました。私も恐る恐るスマホを持ち出して写そうとしましたが、絵画作品はその

気になりませんでした。ただ一つだけ、荻原礫山の「女」という彫刻だけ撮影しました。あらゆる角度からの印象を留めておきたかったからです。しかし撮影したものを観てやはりダメだなと思いました。通常の写真に写すと透視図法的にゆがんだ画面になっているからです。撮影したものはあまり見ずに記憶のほうを大切にしていきたいと思いました。(と言いながら、掲載した写真は私が写したものです。「鮭図」は美術館のパンフレットに掲載されていた写真です。)

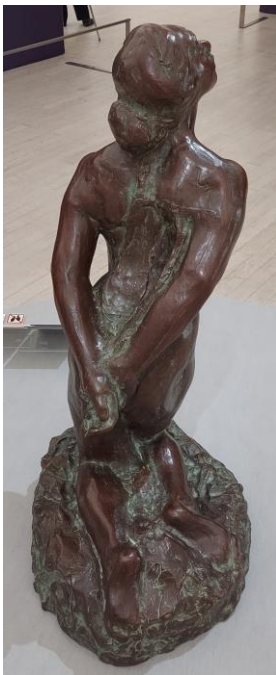
今回の内容と同じようなことを「326 大宰府II」でも記述していましたね。

○ 自市自賛

市立美術館から望む北九州市(八幡・戸畑方面)の市街地風景はいつ見ても感動します。去年は午前中の風景だったと記憶していますが、今回は午後でしたので太陽が自分の左後方にありました。前回とは雰囲気異なるよさを見つけました。美術館の建物は北を向いていますのでいつも色がきれいに見えます。玄界灘の青も美しい。しかし風景も写真にすると迫力が薄れます。直接見た風景の印象に近づけるためには望遠などの機材が必要でしょうね。私はまだ夜景を見に登ったことがないのでいつか挑戦してみたいです。



高橋由一《鮭図》



荻原礫山(守衛)《女》

